

武庫川の川づくり

アユ
武庫川のシンボルフィッシュ

～武庫川水系河川整備計画のポイント～



兵庫県では、武庫川の今後20年間(平成23～42年度)にわたる「治水」、「利水」、「環境」、「維持管理など」の目標と具体的な整備内容等を定めた「武庫川水系河川整備計画」をつくりました。
このリーフレットは、計画のポイントについてまとめたものです。

兵庫県では「総合的な治水対策」に取り組みます

武庫川を取り巻く状況が変化

低平地への人口・資産の集積

1921年 → 2004年

凡例: 山地(緑), 農地(黄), 宅地(赤), ゴルフ場等(白)

市街化の進展による流域の保水・貯留能力の低下

むかしは… → いまは…

集中豪雨の多発

平成21年台風9号(佐用町)
平成16年台風23号(豊岡市)

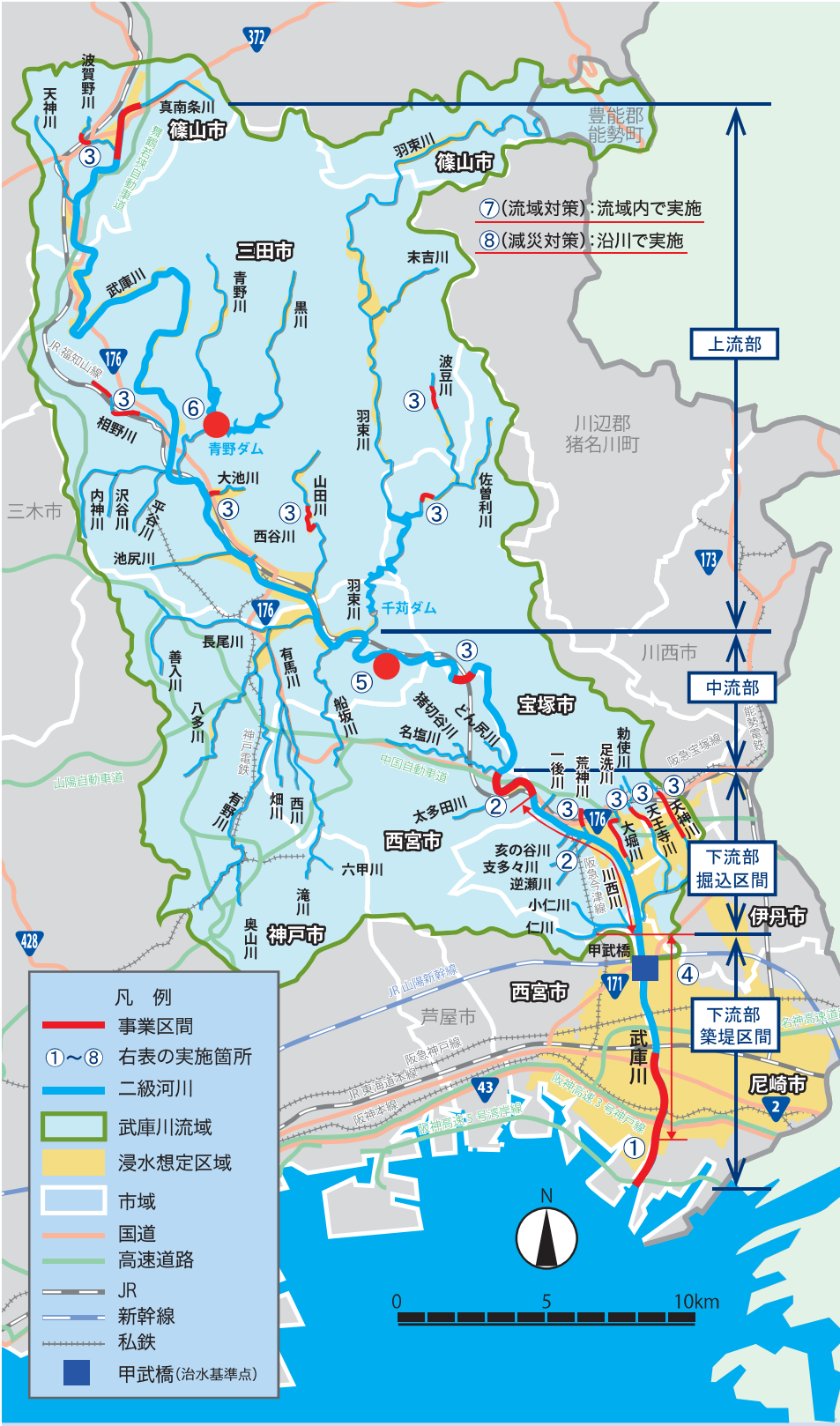
武庫川でも洪水被害が発生

平成16年台風23号などによる洪水被害



県内における水害からの教訓

- …河川整備だけで未曾有の豪雨による想定以上の洪水をコントロールすることは不可能…
- …河川が溢れることはあり得るということを住民に知らせる必要がある…
- …「自分の命は自分で守る」「自分たちの地域は自分たちで守る」という**自助・共助意識の喚起が必要**…
(兵庫県台風第9号災害検証委員会 提言より)
- …行政や管理の枠組みを越えて、**流域全体の視点から総合的な対策に取り組む**必要がある…
(兵庫県台風第23号災害検証委員会 報告書より)



項目	内容
河川対策	① 下流部築堤区間 (河口～JR東海道線橋梁下流) 低水路拡幅、高水敷掘削、河床掘削
	② 下流部掘込区間 (仁川合流点～名塩川合流点) 溢水対策(護岸整備、パラペット等)、河床掘削等
	③ 中上流部及び支川 河道拡幅、河床掘削、溢水対策(パラペット等)、堤防強化等
	④ 下流部築堤区間の堤防強化 (南武橋～仁川合流点) 洪水に対する浸透対策、侵食対策
洪水調節施設の整備	⑤ 新規遊水地の整備 武庫川上流浄化センター内の用地の一部を転用し遊水地を整備
	⑥ 青野ダムの活用 予備放流による洪水調節容量を現在よりも拡大
流域対策	⑦ 学校、公園、ため池等を利用した雨水の一時貯留施設整備等
減災対策	⑧ 「知る」「守る」「逃げる」「備える」の4項目を柱とする被害軽減のためのソフト対策等

- 凡例
- 事業区間
 - ①～⑧ 右表の実施箇所
 - 二級河川
 - 武庫川流域
 - 浸水想定区域
 - 市域
 - 国道
 - 高速道路
 - JR
 - 新幹線
 - 私鉄
 - 甲武橋(治水基準点)



流域連携 地元住民、NPO、事業者、行政等が適切な役割分担のもと連携を進め、「参画と協働」による武庫川づくりに取り組みます。

モニタリング 必要なデータを集め、今後の川づくりに役立てます。

河川整備計画のフォローアップ 河川整備計画を着実に進めるため、計画のフォローアップを行っていきます。



このリーフレット以外に武庫川水系河川整備計画の概要をまとめたパンフレットを用意しています。パンフレットは県のホームページ、もしくは流域圏内の土木事務所ですり入手できます。

兵庫県 県土整備部 土木局 総合治水課 武庫川総合治水室
〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5-10-1
TEL 078-341-7711(代表)

23南②-005A4



計画の特徴 1

総合的な治水対策

流域全体で防災力の向上をめざし、

河川対策

流域対策

減災対策

を3本柱とする「総合的な治水対策」を進めます。

武庫川の治水が
目指すところ

想定を超える事態においても、第1に人命を守ること、第2にライフラインなど守るべき「まち」の機能を明確にして
防御することにより、県民生活や社会経済活動への深刻なダメージを回避することを目指します。

目標流量	将来	4,690m ³ /s	河川整備基本方針
	今回	3,510m ³ /s	河川整備計画 (戦後最大洪水である昭和38年6月27日洪水と同規模) (計画期間20年間)
	現在	2,720m ³ /s	現在の施設能力

(甲武橋基準点)



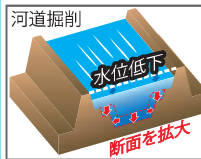
河川対策

河道を掘り下げて断面を大きくしたり、堤防が決壊しないように強化したりします。また、遊水地の整備等により、洪水時に下流へ流れる水量を減らしたりします。

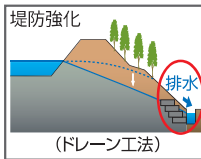
分担量	将来	4,610m ³ /s
	今回	3,480m ³ /s
	現在	2,720m ³ /s

河道対策

将来	3,700m ³ /s
今回	3,200m ³ /s
現在	2,500m ³ /s



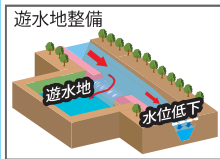
水の流れる断面を大きくし、洪水時の水位を低下させる



堤防にしみ込んだ水を速やかに排水し、堤防の決壊を防ぐ

洪水調節施設

将来	910m ³ /s
今回	280m ³ /s
現在	220m ³ /s



洪水の一部をためて下流へ流れる水量を減らす

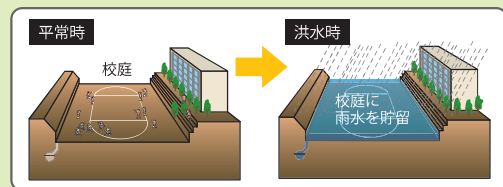


洪水前に水道用水を一部放流して洪水をためる容量を増やす

流域対策

学校の校庭・公園・ため池等に雨水を一時的にためることなどにより、流域からの雨水の流出量を減らします。

分担量	将来	80m ³ /s
	今回	30m ³ /s
	現在	0m ³ /s



減災対策

計画規模を上回る洪水など、想定を超える事態においても人命を守り、被害を小さくする減災対策を進めます。

水害リスクに対する認識の向上

情報提供体制の充実と水防体制の強化

知る 守る
逃げる 備える

的確な避難のための啓発

水害に備えるまちづくりと水害からの復旧の備え

※新規ダム建設や既存の利水施設である千刈ダムの治水活用等については、河川整備基本方針の目標達成に向けて、必要性・実現可能性の検討を継続しています。

計画の特徴 2

環境の「2つの原則」

生物多様性を保全するため、河川工事を行う際には環境の「2つの原則」を守ります。

武庫川を特徴づける多種多様な動植物が、今後も生息・生育できる豊かな自然環境の保全・再生に努めます。

原則1 流域内で種の絶滅を招かない



武庫川に生息・生育する貴重種の例

原則2 流域内に残る優れた「生物の生活空間」の総量を維持する



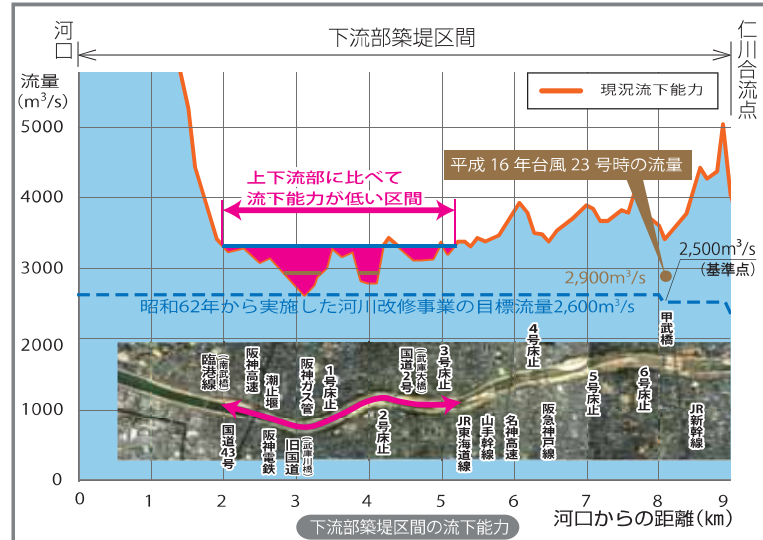
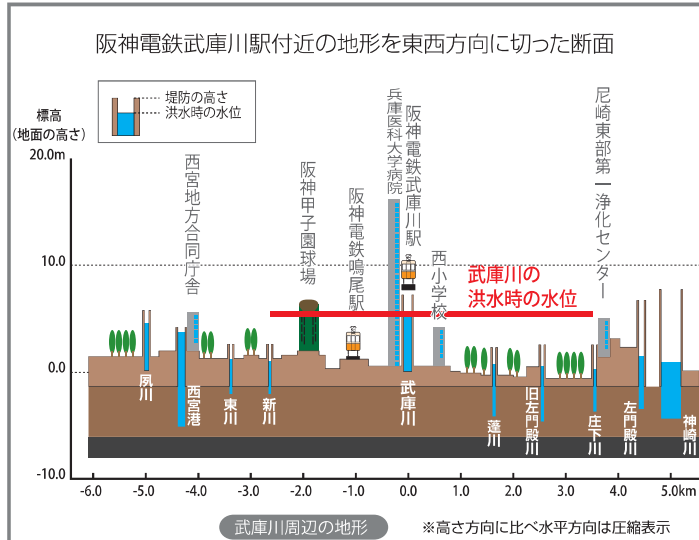
全体的にも生物多様性が高い武庫川上流の優れた「生物の生活空間」

配慮を検討すべき「生物の生活空間」を改善する

さらに、武庫川の自然環境をより良いものにするため、配慮を検討すべき「生物の生活空間」(改善が必要な空間)を抽出し、環境改善を効果的に行います。

喫緊の課題

河口～仁川合流点(下流部築堤区間)は、ひとたび堤防が決壊すると甚大な被害が予想されることから、この区間の安全性を早期に向上させることが喫緊の課題となっています。



安全性の段階的向上

河川整備基本方針で定めた将来の目標達成には長い年月が必要なため、河川整備計画を策定して段階的に安全性を向上させます。

